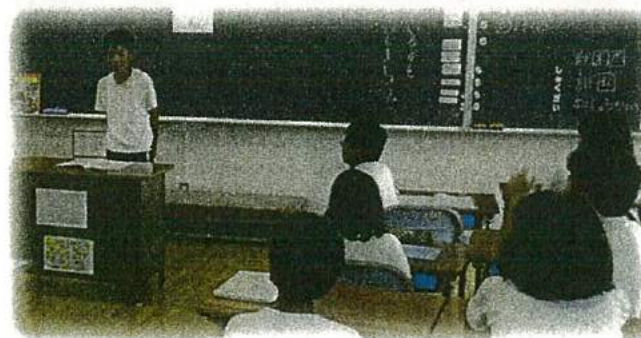


四日市市 学力向上アクションプラン

平成28年5月



四日市市・四日市市教育委員会

目 次

- 1 四日市市学力向上アクションプラン策定の趣旨・・・・・・・・・・ P 1
- 2 四日市市学力向上アクションプランの概要・・・・・・・・・・ P 2
- 3 学力向上のための具体的なアクション・・・・・・・・・・ P 4

(参 考) 四日市市の学力向上について (提言)

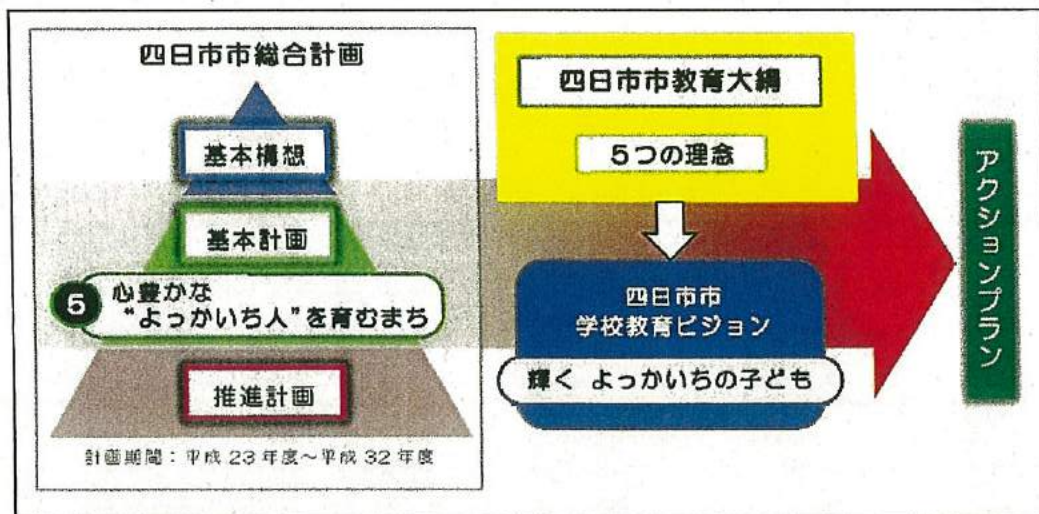
1 四日市市学力向上アクションプラン策定の趣旨

○アクションプランの位置付けと役割

平成 27 年 11 月に総合教育会議の協議を経て「四日市市教育大綱」が策定されました。これは、本市教育の基本的な理念を示すものであり、本市総合計画※1の基本目標5「心豊かな“よっかいち人”」を教育大綱の方針として、また、本市学校教育ビジョンを教育大綱の理念を実現するための具体的な施策として位置付けています。この教育大綱の理念に示す姿を着実に実現するため、特に優先的に取り組むべき内容について策定した行動計画が「アクションプラン」です。本プランによって、大綱の理念がより実効性のあるものとなるよう取り組みを進めます。

今回策定する「学力向上アクションプラン」は、学力向上について、本市独自の教育施策を展開し、子どもたちに社会人になっても通用する問題解決能力を育む基礎となる確かな学力の向上を目指すものです。

学力向上のためには、「何のために学ぶのか」という目的意識を持つことや、「学ぶこと」と社会とのつながりを意識しながら、主体的な学習意欲を持つことが必要となります。教育活動全体を通して、子ども一人一人の実態や課題を踏まえ、豊かな人間性と感性を培うこと、さらに仲間づくりを進めるなかで、集団の中での協調性や他者を思いやる心を育むこと、個々の自主性・自立性を育てること、人権尊重の意識を醸成することなどを大切にしながら、主体的・協働的に学ぶ意欲や態度を身に付け、学校での学びを自分自身の人生の充実・幸せや将来の社会貢献につなげていく「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指します。



※1 「四日市市総合計画」 平成 23 年度からの 10 年間を対象とする市の総合計画。基本目標 5 「心豊かな“よっかいち人”を育むまち」において、教育に関する基本的な政策を掲げている。学校教育分野においては、「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指した「四日市市学校教育ビジョン」を策定し、これを本市の学校教育分野の教育振興基本計画として位置付けています。

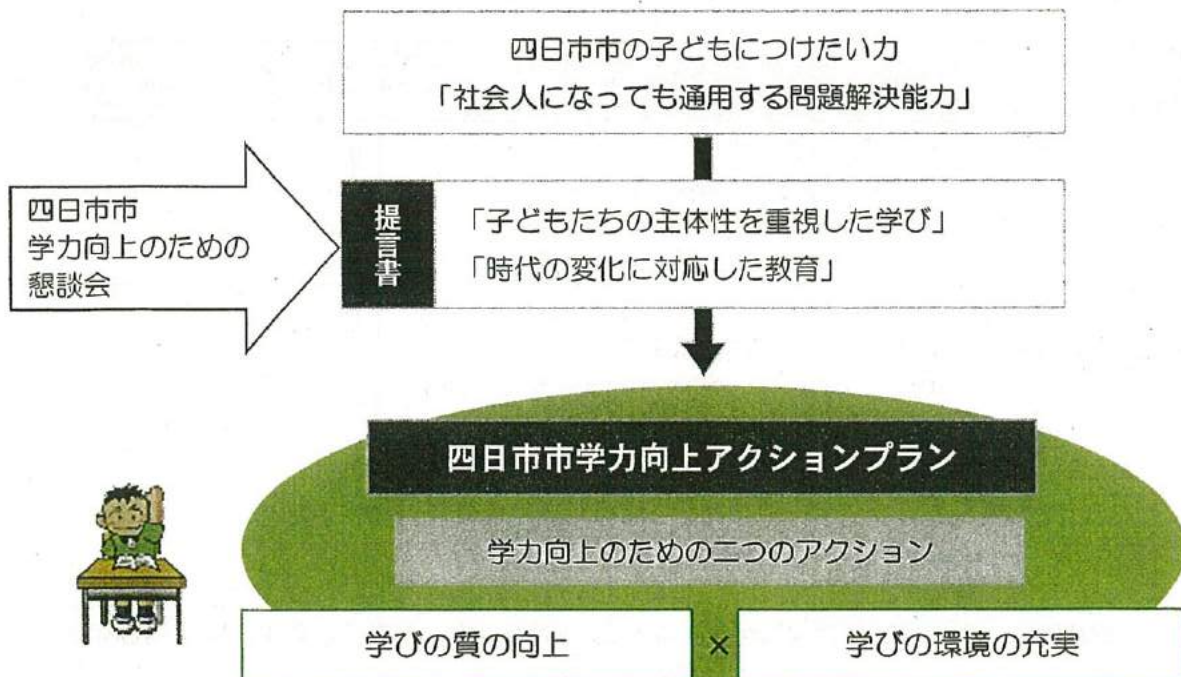
○「学力向上アクションプラン」策定の経緯

平成 27 年 4 月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、首長と教育委員会との連携強化を図るため、首長、教育長及び教育委員で構成する「総合教育会議」が設置されました。本市の総合教育会議においては、「学力向上」をテーマに協議が行われ、子どもたちの更なる学力向上を目指して、有識者で構成される「四日市市学力向上のための懇談会」を設置することになりました。懇談会では、本市の学力や教職員研修の現状を踏まえ、社会人になっても通用する学力や本市の特長を生かした学力向上の方策についての議論が行われました。そして、それらの議論を踏まえ、学力向上のための提言「四日市市の学力向上について」がまとめられました。

この提言を受け、本市の子どもたちの更なる学力向上を目指して「四日市市学力向上アクションプラン」を策定しました。

2 四日市市学力向上アクションプランの概要

四日市市の子どもにつけたい力を育むため、学力向上のための懇談会からの提言を反映させ、学力向上のための二つのアクション「学びの質の向上」「学びの環境の充実」からなる四日市市学力向上アクションプランを策定し、概ね5年間の期間において実行性のある取り組みを行います。



○プランの計画期間と評価

概ね5年（平成28年度～平成32年度）を計画期間とします。

プランの実施にあたっては、第3次学校教育ビジョンの基本目標1「確かな学力の定着」における成果指標に基づいた評価を行います。これによって、プランがより実効性を発揮し、子どもたちに確かな学力が定着するよう進捗管理を行います。

また、学校施設整備など、教育環境の充実のための具体的な施策の実施にあたっては、本市第3次推進計画（平成29年度～平成32年度）と連携しながら進めていきます。

<参考> 第3次四日市市学校教育ビジョン「成果指標」

第3次学校教育ビジョンでは、特に「子どもにつけたい力」を実現するための施策の成果を測定するため、基本目標について、毎年、その評価を実施します。評価にあたっては、以下に示す「子どもにつけたい力」が育成されているかを測定するための成果指標を設定します。これにより、基本目標の具体的な施策の実施状況とその効果を点検・評価し、次年度以降の取組の改善に反映させていきます。

基本目標1 「確かな学力の定着」

指標① 基礎的・基本的な知識及び技能

指標② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

指標③ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

基本目標	成果指標	現状値（※）		目標値 (平成32年度)
1. 確かな学力の定着	① 全国学力・学習状況調査結果 (小6…国語A、国語B、算数A、算数B) (中3…国語A、国語B、数学A、数学B) 全国平均値を100としたときの全科目の市平均値	小	97.4	102
		中	101.3	105
	② 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合	小	63.2% (全国 66.9%)	80%
		中	65.6% (全国 62.9%)	80%
	③ 「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合	小	89.5% (全国 89.5%)	95%
		中	79.3% (全国 78.4%)	85%

(※) 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

3

学力向上のための具体的なアクション

学びの質の向上

社会人になっても通用する問題解決能力を養成し
実生活への応用力を身に付ける
四日市の学び方

Action1

確かな学力定着のための授業改革

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るため、問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック（四日市モデル）を活用した授業実践事例を作成し、アクティブラーニングを活用した授業改革に取り組みます。

Action2

思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実

論理的思考とコミュニケーションの基盤である言語を使いこなす能力を高めます。
的確に相手に伝わる表現を意識させる取組を進めて、1分間コメントや弁論大会など、表現力を磨く機会を充実させます。

学力向上のための二つのアクション

学ぶことと社会とのつながりを意識し
ふるさと四日市への愛着と誇りを醸成する
キャリア教育の充実

Action3

四日市の地域資源の教育への活用

産業、環境、港等、四日市の特長である地域資源を教育へ活用する仕組みを構築します。
キャリア教育の視点を生かした企業等との連携を進めます。

学びの環境の充実

一人一人の子どもを引き出すための
きめ細かな環境整備

Action4

空調設備整備による良好な学習環境の充実

これまでに例をみない程の猛暑等の発生により良好な学習環境が保てないという課題を克服するため、普通教室の空調設備整備を進め、快適な学習環境を整えます。

Action5

ICT活用による学びの環境の革新

授業で日常的にICTを活用できる環境整備を進めるとともに、デジタル教科書等の導入など、ソフト面の整備を進めます。

新しい時代に対応し
社会のグローバル化を見据えた
学習環境の整備

Action6

英語教育環境の充実

グローバル化する社会において求められる人材育成に対応するとともに、学力としての英語、コミュニケーションのツールとしての英語という2つの面から英語能力強化のための環境を整えます。

学びの質の向上

指導課・教育支援課

Action 1

確かな学力定着のための授業改革

○目的

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、身に付けた知識・技能を基に情報を収集したり、他者と協働的に課題解決したりできるよう、確かな学力の向上のための授業改革を進めます。

全国学力学習状況調査及び到達度検査の結果分析に基づく授業改革

○全国学力学習状況調査及び到達度検査の結果分析から、「強み」「弱み」を把握し、基礎・基本の定着と授業改革につなげます。

- ・年に1回以上、各校の学力向上や授業づくりをテーマとした研修会に指導課・教育支援課の指導主事を派遣（大学連携による大学教員の招聘など外部講師を含む）

○「授業のねらいを明確に示す」「授業の内容を振り返る」活動を取り入れた指導を徹底します。

- ・教科の特性を踏まえた上で、授業でつきたい力を明確にし、児童生徒が「何を学んだか」「何ができるようになったのか」を実感できるよう指導計画の徹底

優れた指導方法の共有による教員の指導力向上

○『問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック』に基づく主体的・協働的な授業づくりを進めます。

- ・ガイドブックの改訂（平成28年度）
アクティブ・ラーニングなど、時代の要請に応じた内容を盛り込んだガイドブックの改訂版を発行
- ・公開授業研究会の開催による各教員への啓発
ガイドブック活用推進校や「学びの一体化」教育実践研究推進校区2校区における授業公開
- ・実践事例集の発行
新聞記事やポスターなど、図表を含んだ資料や情報の整理・活用なども視野に入れた授業展開を紹介した事例集の発行

○リーフレット『教員用 授業づくり ヒント&ポイント』を学期に1度発行します。

- ・主体的・協働的な学びを実現している授業実践事例を取りまとめ、市内全教員に配布し、教員間の情報交流を促進

○ノート指導・板書活用のための研修を充実します。

- ・知識の整理や思考を深めるツールとして、ノートの活用に着目します。児童生徒へのノート指導や授業中の板書に関して、優れた実践を学力向上研修会や発行物で紹介



学びの質の向上

指導課・教育支援課

Action 2

思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実

○目的

知っていること、できることをどう使うかという視点から、思考力・判断力・表現力を高める言語活動を充実させ、コミュニケーションと論理的思考の基盤である言語を使いこなす能力を高めます。

授業における言語活動の充実

○これまでの学習や経験をふまえて、考える力や資料を活用する力を生かす機会を増やします。

- ・全国学力学習状況調査にかかる学力向上研修会（小5と中2の担当教員対象）や、各校の研修会に指導主事を派遣する際、思考力を鍛える授業づくりや資料を活用した授業展開などを助言

○道徳や学活、総合的な学習の時間をはじめ、すべての教育活動で、意見交換や議論を活発に行う取り組みを進めます。

- ・新たに位置付けられた「特別の教科 道徳」の優れた実践事例を発行物で紹介し、「考え、議論する道徳」への転換を促進

言語をつかいこなす場の設定

○読書後や体験後の1分間コメント、弁論大会などの機会を設け、的確に相手に伝わる表現力や質疑応答を通じたコミュニケーション能力を磨く取り組みを進めます。

- ・「中学生スピーチコンテスト THE BENRON」の開催
原稿をもとにしたプレゼンテーションに加えて、質疑応答をからめて双方向のコミュニケーション能力を求める。
- ・自分の考えを整理する力や分かりやすく相手に伝える力を育む機会として、読書後や体験後の1分間コメントの積極的な実施の促進



Action 3

四日市の地域資源の教育への活用

○目的

本市の強みである「四日市ならではの地域資源」を教育に生かすことによって、ふるさと四日市への郷土愛を育み、将来の四日市や社会の一翼を担う「心豊かな“よっかいち人”」の育成に努めます。

四日市の地域資源活用のための教材等の整備や啓発

○博物館・プラネタリウムを積極的に活用します。

- ・時空街道等の見学による歴史学習
- ・小学校向け学習投影の実施、中学生への学習参加券の配布
- ・移動式プラネタリウムによる中学校向け学習投影の実施

○久留倍官衙遺跡を学習に活用します。

- ・「小・中学校における久留倍官衙遺跡の活用計画」をもとにした授業の推進、現地での学習

○小学校3・4年生用副読本『のびゆく四日市』を改訂します。

- ・四日市ならではの教育資源を、学習教材に更に生かせるよう改訂

○四日市の地域資源を楽しく学べるガイドブック等を作成します。

- ・小学校の高学年や、中学生向けに、四日市の地域資源の活用を目的とした、ガイドブック等を作成

キャリア教育の視点を生かした企業等との連携

○地元企業や JAXA（宇宙航空研究開発機構）との連携授業の中で、生きた教材を用いた授業づくりを推進します。

公害対策モデル都市としての本市の歩みを教育へ活用

○産業の発展と環境保全を両立するまちづくりを進めてきた本市の公害対策モデル都市としての歩みを、教育に活用します。

- ・四日市公害と環境未来館の活用（公害や環境に関する学習に対して、往復バス代を全額補助）
- ・小・中学校における四日市版 ESD カレンダーの作成



Action 4

空調設備整備による良好な学習環境の充実

○目的

これまでに例をみない程の猛暑等の発生により、良好な学習環境が保てないという課題を克服するため、空調設備整備によって快適な学習環境を整えます。

普通教室への空調設備整備による快適な学習環境の確保

○特別教室への空調設備の設置に引き続き、普通教室への空調設備整備を進めます。

- ・普通教室への空調設備の整備における事業手法等の調査検討

小・中学校の普通教室の数は、約960室あり、その整備については大規模なものとなります。既に整備した図書室や視聴覚室の使用状況や施工時の問題点を十分把握するとともに、他の先進事例も参考としながら調査検討を進めます。

(おもな調査検討内容)

- ・効率的な空調設備の配置と整備スケジュール
- ・適正な工事費の把握
- ・効率的な発注手法
- ・予算の平準化の手法
- ・整備後の維持管理の効率化 他

○調査検討結果に基づき、具体的な整備を進めます。

- ・調査検討結果を踏まえ、具体的な整備をすすめることで、学習環境を充実させます。



学びの環境の充実

教育支援課

Action 5

ICT 活用による学びの環境の革新

○目的

ICT を効果的に活用し、教員が学習内容をわかりやすく説明することで、子どもたちの学習内容への興味関心や、学習効果を高めます。

また、子どもたちが自らの疑問について、意欲的に調べて発表するなど、主体的・協働的な学びを実現するために、ICT の環境整備を進めます。

学校の ICT 環境の革新・整備

○平成 29 年度～平成 30 年度

- ・研究推進校を指定し、電子黒板等の ICT 環境整備・拡充を行い、効果的な整備や活用について調査・研究を行います。

○平成 31 年度以降

- ・研究成果を踏まえて、より効果的な整備方法についての検討を行い、電子黒板等を全教室で活用できるように、中学校から段階的に整備・拡充を行っていきます。
- ・電子黒板の整備に引き続き、子どもたちの主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）を深めるため、タブレット端末の導入を進めます。
- ・授業における、具体的な活用方法についての研究及び研修を推進します。

デジタル教科書等ソフトウェア面の整備

- 学習意欲を高めるとともに学力を向上させるため、デジタル教科書等のソフトウェア面の整備を進めます。



学びの環境の充実

指導課

Action 6

英語教育環境の充実

○目的

グローバル化する社会において活躍する人材育成のため、英語教育の充実が求められています。そこで、学力としての英語、コミュニケーションツールとしての英語という2側面から学習環境を整え、新学習指導要領における新しい英語教育への速やかな移行を目指します。

教室で英語を効果的に学ぶ環境の整備

○教室で英語を効果的に学ぶ環境整備を進め、中学校卒業時に日常生活に必要な基本的な英会話能力を身に付けることを目指します。

- ・専科教員による英語授業実施（小学校）に向けた非常勤講師の配置
- ・生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を具体的に設定した「CAN-DO リスト」（※1）の作成研修会の開催
- ・中学校3年生での英検 IBA（※2）の実施

※1 文部科学省「外国語能力の向上に関する検討会」（平成23年6月）において提言された学習到達目標

※2 日本英語検定協会提供のテスト。読解力やリスニング力が英検何級相当が診断可能。

異文化理解を図り、国際的視野を広げる機会の提供

○学んだ英語を活用して、異文化理解を図り国際的視野を広げる機会を提供します。

- ・計画的にすべての学校で、ネイティブの英語指導員を派遣して、夏休み出前講座「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ」を実施
- ・日常生活で使える英会話集『修学旅行で英会話』（仮称）の作成

英語担当教員の英語指導力向上

○英語科教員の「英語力向上研修」の実施

○英語教育に関する小中連携（情報交換や交流・カリキュラム連携など）の取組や小学校外国語活動におけるモジュール学習などの先進的な取組など実践事例の共有化

